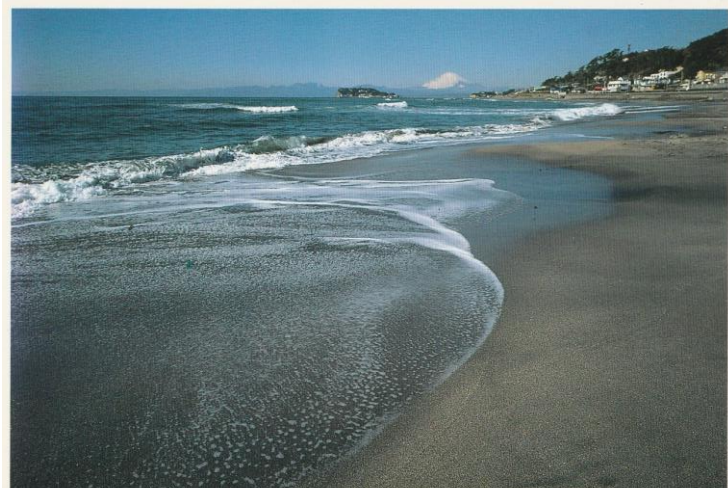


相州刀鎌倉鍛冶ルーツ舞草刀



八柳 修之

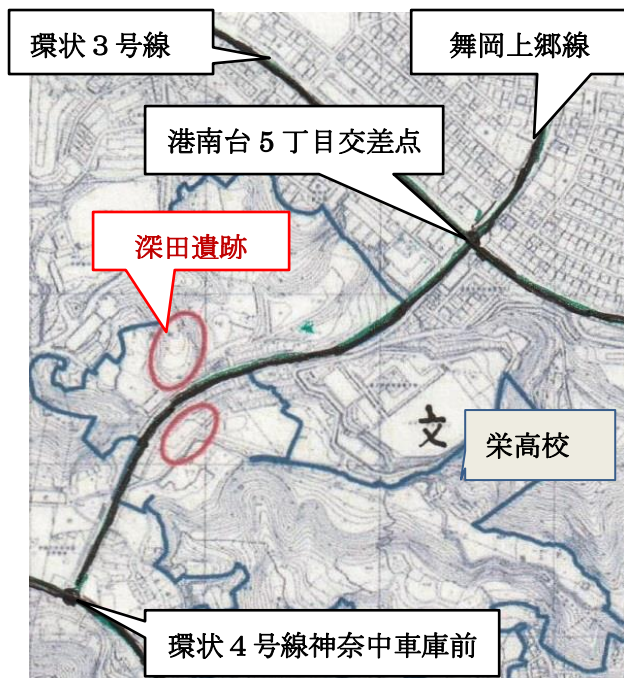


稲村ヶ崎 絵葉書より MINAMI HAYAMA CORP

会報 5 月号の巻頭言、小原万宗さんの「歩いて・調べてボケ防止」興味深く拝見しました。文中、稲村ヶ崎の砂浜、確かに黒く多くの砂鉄が混じっていることが分かります。以前、福井正彦さんに昔付近に砂鉄採集所があり、名刀正宗の墓が本覚寺にあることを教えていただいた。砂鉄はたたら（粘土でつくった溶鉱炉）で生成し玉鋼をつくり、これを薄く平らに打ちのばして刀をつくる。そのたたらはどこにあったのであろうか。ネットで調べたが鎌倉市内にたたら跡があったという記録は見渡らなかった。玉鋼をどこからか移入したに違いない。

私は 2002 年 2 月に藤沢に引越する前、横浜市栄区公田町という鎌倉市と隣接する所に住んでいた。源頼朝が治承 4 年（1180）に鎌倉に入る前まで山内首藤氏の所領で山之内本郷と呼ばれていた。兼好法師も来て歌を詠んだという、いたち川（注）という名の川が流れ、鎌倉時代、東北への交通上の重要拠点で鎌倉の中の道、下の道が通っていた。

栄区内の栄高校付近からは 1986 年、舞岡・上郷線道路建設の際、14 基ものたたら跡が発見され深田製鉄遺跡と命名された。たたらは飛鳥時代から平安前期の約 200 年にわたる古いものであった。近くに鍛冶に住んだと見られる猿田遺跡も発見され、鍛冶ヶ谷という地名あることから鍛冶集団の集落があったことを示している。しからば砂鉄はどこから運ばれて来たか、それはまだ解明されていないようだ。以前 FWA の例会で港南台駅から円海山を經由し金沢文庫に至る武蔵国と相模国との境界の尾根道、ビートルズ（かぶと虫）・トレイルを歩いたことがあった。コース中、かつてこの道は鉄の道と呼んでいたという案内板があったことを記憶するから、このルートで砂鉄を金沢から運んだと思われる。大規模なたたらの遺構は鍛冶の存在があったことを示し、栄区は鎌倉の食糧調達のロジスティック（兵站）と相まって、のち刀工正宗に代表される相州山内鍛冶の本拠であったと推測される。



深田遺跡発掘調査時の一部



正宗に代表される日本刀のルーツと言われているのが舞草刀（もくさ）であり、相州刀鍛冶とは深い関係がある。この事を知ったのは谷村彪さんの小学校時代の恩師及川徳弥先生（のち成城学園校長）から伺った話であった。先生は岩手県一関市の出身で平泉の舞草という所で教師をされた事があった。舞草にある舞草神社は社殿によると大同2年（807）坂上田村麿の創建と伝えられ、平安中期の「延喜式」にも記述されているようで古い歴史を持つ。舞草刀は日本刀の原型と言われる実戦型の反りのある刀で、原料は砂鉄ではなく地元で産出する良質な鉄鉱石でこれを鍛えて作刀され、奥州の覇者安倍氏、平泉藤原三代の勢力拡大に大きな役割を果たした。しかし、やがて源頼朝の奥州征伐で平泉の藤原氏が滅亡すると、舞草鍛冶は全国へ散らばって行った。山之内首藤は奥州征伐で功を挙げ、頼朝から相模、備後、伯耆の所領を受けた。また多くの舞草鍛冶は頼朝によって山之内本郷に強制移住され、古くからの地鍛冶と融合し、相州鎌倉鍛冶として進化していった。

ところで、舞草の刀鍛冶集団はどこから来たのであろうか。鉄は大陸から鍛冶とともに弥生時代に入ったが、大和朝廷の支配を逃れて伯耆国から奥州へ移住した鍛冶集団ではないかというのが、栄区の郷土史家、元庄戸中学の菊田教諭の推論である。



平泉にある舞草神社

一関博物館は刀剣の博物館として有名なそうで愛好家が

全国から訪れるそうである。写真はいずれも無料画像より

(注) いたち川 横浜自然公園を水源とし、大船駅付近タツノの脇から柏尾川に注ぐ 2 級河川。イタチが棲んでいたからこの名がついた訳ではない。出立川 (いでたちがわ) の転訛したものと考えられている。

兼好法師も山之内本郷にやって来て次の歌を詠んでいる。
相模国いたち河という所にて此所の名を句の上へすえて旅の心をと題し。
いかにして たちにし日より ちりのきて 風だに闇を はらはざらん
宿場に泊まり出発の気持ちを詠んだものと思われる。 完

参考資料：

上郷深田遺跡発掘調査報告 1988 年 横浜市埋蔵文化財調査委員会
上郷深田遺跡を守る会 HP 一関博物館 HP など